



私

たちのゼミでは、植民地時代から現在に至るまでのアメリカ文化史を研究しています。アメリカ合衆国は、民族や宗教間のさまざまな衝突を繰り返しながら発展してきました。「アメリカ合衆国＝移民の国」と言われますが、信仰の自由や新たな経済活動の可能性を求めて、ヨーロッパ北部や西部の人々が入植したのが、アメリカ合衆国の始まりです。19世紀後半に入ると、ヨーロッパ東部や南部からの移民も増え、やがてプロテスタントとカトリックの対立が起こります。第2次世

界大戦後には、アジアやアラブ、ヒスパニック系の移民が増え、人種間の対立や差別も顕著になっていきます。一方で、もともとアメリカ大陸で生活していたネイティブ・アメリカンは原野の片隅に追いやられます。また、植民地建設が始まり、奴隷として連れてこられたアフリカ系の人々は、20世紀後半になって人権を奪われた状況が続きました。つまり「アメリカ合衆国＝移民の国」とひと言でいっても、時代によって移り住んだ民族や持ち込まれた文化は異なり、抱える問題も変化してきた。そうした流れを踏まえ、アメリカ文化を研究するのが私のゼミのテーマです。学習の進め方は、まずテキストでアメリカ文化史の基本的な流れを学んだ後、各自が研究テーマを設定します。西部開拓、映画、食文化、黒人音楽など、興味の対象はさまざま。一見学術的なテーマとは無縁にも感じられますが、たとえば黒人音楽のルーツをたどると、もとは労働歌であったり、差別への怒りが根底に流れていたりと、音楽が生まれた時代背景が見えてきます。テーマは何であれ、

今月は、
文学部比較文化学科の

丹治めぐみ 研究室



さまざまな民族や 言語、宗教が共存する アメリカ文化史 について研究しています。

丹治めぐみ

Megumi Tanji
文学部比較文化学科教授

青山学院大学文学部英米文学科卒業、東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京女子大学現代文化学部地域文化学科助手などを経て現職。専門は、19世紀のアメリカ文学やアメリカ女性作家の研究だが、現在のゼミでは、社会科学的な見地からアメリカ文化史を教えている。訳書に『現代アメリカ大学生群像』（玉川大学出版部）、『祈りの美術館』（日本キリスト教団出版局）など



テーマパークを文化史の視点で歩く

「東京ディズニーランド」でのゼミ研修の様子。アメリカ合衆国におけるさまざまな人種民族の共存や衝突が、ディズニーランドの中にどう表現されているのかを調べるのが目的。たとえば「蒸気船マークトゥェイン号」というアトラクションの途中には、ネイティブ・アメリカンの村が再現されているが、事前に知識を仕入れてから見ると、それはリアルな姿ではなく、ステレオタイプ化された表現に過ぎないことが分かる。

歴史の中での位置づけを知ること
に意味があります。

アメリカ合衆国の特徴は多様性です。異なる民族が折り合いを付
け、それぞれの文化が独自性を失
わず共存している。というより共
存できていないが、模索し続けて
いると言ったほうが正しいかもしれ
ません。ともかく多様な文化が
共存する社会は、アメリカ合衆国

にとって困難な課題ではあるけれ
ど、それが国としてのエネルギー
となっているのは確かです。

アメリカ合衆国ほどではないに
せよ、日本も価値観の多様化が進
んでいます。アメリカ文化史を学
ぶ中で「個性を活かしつつ互いが
共存できる社会のあり方を考える」
——学生にはそんな意識を持って
学んでほしいと思っています。

「貧困や差別はなぜ生まれるのか」に興味があるんです

ゼミでは「レーガン政権におけるヒップ
ホップについて」の研究をしています。黒
人カルチャーに興味を持ち始めたのは大学
に入ってから。音楽というよりもラップに
込められた政治的なメッセージに興味を持
ったのがきっかけです。80年代から現在に
至るまでのヒップホップの歌詞には、ロナ
ルド・レーガンを批判したものが非常に多
いんです。レーガンは大統領時代に、富裕
層の税金を安くする一方で、貧困層への政
府援助を減らす弱肉強食政策を打ち出し、

二極分化社会を作り出した。そうした社会
構造が現在も続いているからこそ、彼らは
今でもレーガンを批判するんです。

それまでの私は、アメリカ合衆国に黒人
差別があることは知識として理解していま
したが、今も続いているとは思っていま
なかった。それがラップを聴き、リアルに感
じられるようになったんです。卒業後は、
同志社大学大学院のグローバル・スタディ
ーズ研究科に進み、さらに深くアメリカ合
衆国の文化について学ぶつもりです。



鯛 彩乃さん
文学部
比較文化学科4年



研究室DATA

3、4年含めてゼミ生21名。テキスト『ア
メリカ文化史入門』（亀井俊介編、昭和堂）
で文化の流れを学んだ後に、3年次
は4,000字以上、4年次は6,000字
以上の論文提出が必須。

評価方法

ゼミ論の内容、授業におけるプレゼ
ンテーション能力、他者の発表に対
するコメント内容、グループワーク
への取り組み姿勢などを総合的に見
ながら評価している。